

堀秀成著
音義本末考

全

811.1
H647c

077025-000-9

811.1-H647c

音義本末考

堀 秀成/著

M10.3

DAC-0207



堀 秀成先生著

音義本末考



全

210362

臨川堂蔵版

8111H64702

たぐひのしるしを以てしるすもす又將に結
中にくはれりす新考ゆゑに
ふくしむれりしを以てしるすもす
梅雨もふり針よれりしを以てしるす
まゝにしるすもす
けしむれりしを以てしるすもす
新考ゆゑに
まゝにしるすもす
新考ゆゑに
まゝにしるすもす
新考ゆゑに
まゝにしるすもす
新考ゆゑに

ふももはふし。新茶の香をよしのとあま
りよとあまし。くはくはたくし。あはれ時とあ
まらふとあまらふ。くはくはあはれとあはれ
ゆもあはあまらふ。くはくはあはれとあはれ
ひそ風のふきはあまらふ。くはくはあはれ
うらうらあまらふ。くはくはあはれとあはれ
うらうらあまらふ。くはくはあはれとあはれ
ひそ風のふきはあまらふ。くはくはあはれ
あまらふ。くはくはあまらふ。くはくはあはれ
あまらふ。くはくはあまらふ。くはくはあはれ

あまらふ。くはくはあまらふ。くはくはあはれ
あまらふ。くはくはあまらふ。くはくはあはれ

明治の十年に春 堀 秀敏

音義本末考

堀 秀成著

○有

天地ノ初癸ノサマニ思ヒ合ベシ

此の有ノ音ハ於阿ノニ音ノ分生^{ワカル}ル本ノ音ヨク天地ノ

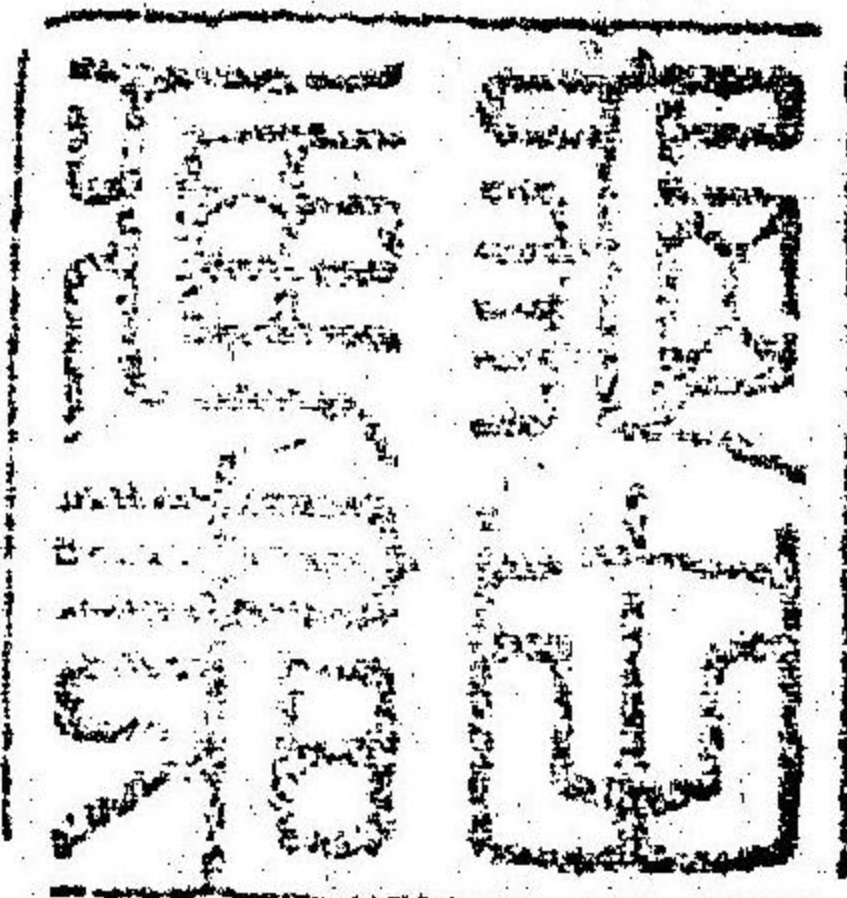
初癸^{ハシメ}ノサマトあるも則彼ノ大虚空^{オホソラ}ニ成れ^ル一ノ物^{モノ}ナリ

天地泉^{アツキヨミ}ト分るへき本^ホナリこの音^{コエツヒ}遂^{カミシモ}ニ上下小分れ^ル於

阿ノニ音トあるを^{オノキ}願^{カガヒ}ニ分れ下りてハ於音トある^{アキ}膠^{カネ}

ニ分れ上りてハ阿ノ音トある也^{ナリ}け^レテ遂^{カミシモ}ニハ^ハく上下

小分るべき^{ハシメ}萌^{モエ}を^{カガヒ}含^{カガヒ}み^{カガヒ}ら^{カガヒ}ハ^{カガヒ}ツ^{カガヒ}ニ^{カガヒ}混^{カガヒ}沌^{カガヒ}テ^{カガヒ}何^{ナニ}カ^{カガヒ}ナ^{カガヒ}リ



觸る呼吸まき音の象成りて唱へ味ひて知るが如し

喉ヨリ初テ発ル息口ノ中ニミチテノビロガラムトスル象アリ
テ至ラヌ所ナキ勢ヲ含ム音

喉ヨリ初メテ発ル息口ノ中ニミチタル象は上よいゆる一ノ
物の大虚空の中ニ成れるがごとしノビロガラムトス
ル象アリテ至ラヌ所ナキ勢ヲ含メル象ハ天泉アマミとゆふ
れむとゆる牙キサシ成り含メルがごとし

有

喉ヲミラキテ伸ル舌ニヨリテナリイヅル音

地ノ成初メノサマニ思ヒ合スベシ

此ノ音初の有の音の中ニ自ら含みて一音よして

ニタ音成兼ニタ音よして一音ある理ありコトアリ音とん

るときは統て五十一音とありて一音あまふるときは一音と一
ア堅メオオアユイと数へ横メオノ音を除きてクソツメ云と数
ふる時は父音九音とありて一音足らざればオノ音を再ビッ
をへてオクソツメ云と唱ふる也これより有ノ音ハ一音よして
ニ音をくりぬたること
成まるべし

そは天地初発のとき 大虚空ニ成れる一ツノ物ありて

其ノ一ノ物の内ニ泉國を成り又上ニ天國を成りて

一ノ物ハ遂ニ頭國と成るさればそは頭國とよばれる物猶

天地と分れたる一ノ物あるは初の有ノ音と則大虚空よ

成れる一ノ物よてこの有ノ音は頭國のはじめなれば

上よいぬるごとく此ノ音いづるまぐくの満ちひろがるや
 とほり勢成含る象あれが静まること成えど必うごき
 て止む勢ある也けりまぐく此ノ音顯國のはぐめあれバ
 彼ノ久羅下那須多陀用幣流とある古へ傳のごとくこの大
 地の初より健剛旋轉て在り形状を今眼前に見るが如く
 阿那奇異あるも此ノ有ノ音よこの象あること成頭を
 願けりふりくおもふべしこれらのこととおのづか著し
 たる神代のを都々といふものは姿しといぬるもそよく
 息の觸る所々大むの脰頤舌の三所あるは脰と阿ノ音の觸
 る所より天也頤と於の音のふり所より泉也舌ハ中

央よ位し有ノ音のふり所より大地也志いり舌よ舌と
 頤との動きき脰は動ざるものあるは大地よハ公運自轉
 の動ありて日の國にも公運ノ轉動なきいとれよいや音し
 る幽契せり成おもふべし

本^四
 ノ延^行ユク象

未續獨活

此ノ音喉より出る息の何所へも分散することある一ツは約
 て延び行く象ありそはもと伸る舌よよま
 あればあり凡そ何れの音の象もそは音成呼ぶ舌の形
 よよることば舌やぐく声の母よその母小肖る故也そ
 る息を舌よ寓し舌よ生いづるが故也又國土の漸

々小延び開けゆる形状よかひ合をべー

本^五才^大ホキナル象 馬牛珍

堅よも横よも開けいづる本ノ音あれバ自然大きある象を
備へたるあり

上件第一等より此ノ第五等まで次第^{ツキク}
義を生^ナし^クく^クく^クく^ク五義よ^クれ^ク也

○右五義

○於

泉の成初のサマニ思と合スベシ

此ノ音大地ノ中心^{ナカ}に合へるは根ノ國とハ天地ノ初判の

時より大地の中心よ空闕ありてを云へバ也委

きこととは別よ云べーくく阿ノ音々天よく空の

理をく衣ノ音々泉^イ平坂^サよく万物發生の理を兼

よ伊ノ音々天ノ衢よく万物萌騰ノ理を兼よた^タ此

音々泉^イ國^{クニ}あれバ大地の中心よく地^チの全体

をも兼たるは本音の五音ハ五音よも兼る所あり

くく有ノ音ハ二音よく二音を兼て一ノ物よ

く大地を兼たれバ外の四音とも異也

本^一ワカレク^降ダル象 弟下落

喉^{ノド}よ^ク發^ス息^ノく^ク降^リて^ク願^ハよ^クひ^キを^クば^クま^ク

了此ノ音を生にきて被ノ一ツ物の内は泉國の成るよぢ
ひ合まじり

○此ノ音茂唱ふッ舌小ッ沈む象あり

強く舌は觸るよは
ら

是レ此の音の内は幽カクは衣ノ音の牙キヤシを合める故也、
衣の音ハ後ハ阿於の産靈ムスよりて全ク顯ハるるあり是
ハ最も妙スよ音クーキ理ありキ小縁オホよおもひ過スる

末

ナガクツ長ツ續ク象

こは第一等のワカレクダル象トらキいてたる末義あり
そは此ノ音願の方へ判れ下る貌ハ零シあどの垂れ

下る形状ありて自然細長トつキ象あり

本

スボマリ二タル象 怖老奥

此ノ音上よハいハるト判れ下り願よハ空トて
生ナり出る音あれハ則この象あり也ハ地心ハ合へル義
ふれハ也そのうハて立昇る勢ハあるものハ昇リて
遂ハその末の開ル貌ハをハ垂れ下る状ありものハ
降りて遂ハその末の空ル貌ハを備へたるもの也假令ハ
草木の牙ハあどハまハて立昇る勢ハあるものは昇るま
にハ遂ハその末開けゆクをハ上ハいハるト零シあどの
は水ノ中ハ沈むものあどハまハて下る状ありものハ

沈むまじく遂よ一ッは空すゆる顔あるふりこ

音よ此象あるをりこれ又準へて志るべし此は「トカ」

マリナル象トリニマリ
タル象を備へたり

此ノ音阿ノ音の見とめ難き象よ對ひて見とむる象あ

るは此ノ第二等の義よかのつら備へたりよくおもふ

ぶ

末
クラキ象

こは第二等のスポマリタル象よといでこ末義也そ

は地心の空りたるよ暗き顔あるハ勿論ふれバ也

本
オモキ象
重
重遅押

立昇りて開くものち軽々沈み降りて空るものハ重き

こといふもけらありけれバ阿ノ音の軽きよ對へん其の

音の重き象あるをよく唱へ志るべし

然のこあらバ開音ハ息散るよ其聲軽くあり

合音ハ息散らバ約る故ニ聲重くあるを思ふべし

此ノ音阿よ對へる重き象ある又和行の遠ノ音もこ

の於ノ音よ對へる亦重き象あることをよ辨へお

えべし

上件第一等より此ノ第三等もよく

一義あるを三義よ分ちてその象成詳

阿於の音の本
ある有る音よ
重く濁れる元
素と清と明と
の元素と見
た其の重く
濁れるが判れ
下りて於ノ音
よふれふれ
バ本よ重き
象あるべき也

よ志たさ也

本^四キ^牙ザシノ^騰ホル象 生

此ノ音ワカレ降りテ頤ニソヒ容ル象あるを長く唱ふる
ときハその息盛よキザシノボリテ蒸く騰るごとく
方へ及ぶ勢何ぞや呼試みてまべー是泉國より
蒸発の氣の天國よおび天國の大氣の蒸降りて泉
國よおび互に通へる幽理あること をおもふべし
遠西人の説も地心と太陽と共に烈火よこすよ
蒸く下よ炎をといふ阿ノ音の蒸降り此ノ
音の蒸昇りて其中よ万物發生の理を兼ねたる音

を生ひことを考ふべし

本^五オ^牙コリイ^生ヅル象 織 逐 意惠

上の第四等のキザシノホル象ハ則物の発り生る形状よ
れバあるはれバあの上の第四等の末義のこと一萬
の草木あど根の力よよその勢萌り騰
りて地上よ發生ものあつたもつたこの於ノ音
ハ根よ配當る音あれバ也

○右^{本五義}合^{末二義}七義

○阿

天ノ成初メサマニ思ヒ合スベシ

本^(一)ワカレノボル象 兄上姉

喉より發する息より昇りて舌より喉よりひひらけり此ノ音を生けさせて彼ノ物より判れ昇りて天ツ國と成るよおもひ合まべり

○此ノ音を唱ふるよ舌小力浮上る象あり強ク舌ハ觸ルヨハ是レ此ノ音の誘よよ舌衣音ノ萌騰りて後ノ伊ノ音と成るべき牙キヤを會ゆる故也

未 アラハル、象

一ツ物より上ニ天ノアテハレハるニ月々る義也

本^(二)アビムカフ象 我間合

此ノ音を呼ぶよ腭ノ願ノ向ふ象ありまき天ツ國ノ上ノ位ノ顯國ノ親ノ相向へる哉思ひ合まべりてこち上の第一等の義の再義をふりて也

本^(三)ビラケワカル、象 明班般

此ノ音哉呼ぶよ口哉全ク開きて音哉生せる也まき立昇る勢あるものハ昇りて遂よその未開ク貌を備へたること於ノ音第ニ等の所よいへるがごとし

未 アザヤカナル象 赤朝貴

こも第三等のビラケワカル、象よりいであたる未義ありそハ物の開けたるハ鬱オホ吧イきことある鮮ハ

る形状あるものあればあるはけく於ノ音は草木も
いはば根のごとく此ノ音ハ花の如き理を具へたるは花
ハ鮮あるが自然の性サガよて天ツ國をとり鮮あるはあ
らぬをよく思ひ合をべー

末廣大キクヒロキ象

第三等のヒラケワカル象よてなす末義也をば
物の開らけたるハ大きき象あれば也けく有於
阿ノ三音いづれも大きき象ありて三音共シナき差
あるは此ノ音の大きき象ハ廣く限りなきが如
く於ノ音の大きき象ハ限りあるがごとく有ノ音

の大きき象ハ動きて勢あるがごとく象を具へ
たり是レ天地泉のニツノ形状ハ各その差シナあればある
神典ある古傳よて明らつのは察オモひ知るべー

上件第三等よてこれきでハもと二義ある
を本末よ分ちてその象は詳よ志たる
あり

本四カ輕ロキ象

粟淡沫

於ノ音第三等の所よいへるがごとく立昇りて開くる
ものも凡て輕きものも是は此ノ音口哉全と開き
て呼ぶ音あればその息空ア聚ることなく開け散

了其ノ音自然オツカラ軽カくふる、茂モよく唱ナゲへ試シして去クるべし於
 ノ音ニ重キ象 此ノ音ニ輕キ象あることは書紀ニ清陽者スミヤカシキナリテ
 薄靡ウソヒキナ而為天重濁者ツビキナ滄滯ツビキナ而為地チとあるニ合せてち
 ふべしけりまマく此ノ阿音アよつけてよくこころえおオが
 れバ適タはざることハ此ノ音天テン國クニよあたれる音あるよ
 それよまマく大虚空の義をもち具ツへたるをよヨく辨
 へかカくべし
伊ノ音ハ天地の間の氣よあアくクれる音阿ノ音ハ大虚空よ
 も適タれる音よ伊ノ音ハ阿ノ音の内よウチくたるが
 りリニニの二音の
 義混マぶべしベシなり
 此ノ第四等の本末三義も大虚空の形
 をも兼カたり

未

トリ取ニ締マラヌ象 井 晚

此コも第四等のカロキ象よイでたる末義ありそは
 重オモきものオモ自然オノツカラ慥シ取締クりたる貌オモありオモ輕カきもの
 のオ自然オノツカラ慥シ取締クりたる貌オモありオモの也假令オモ雲
 霞カ烟カぶカどカどカてカつカまカものカ慥シ取締クりたる物カふ
 るカをもて悟カるカべしけりカハ上カよカいカるカごとく大虚空よ
 思オモひ合カふべし

未

アヤ怪ニ怪マル、象 奇 禍

此コも第四等のカロキ象よイでたる末義也カハ上カよ
 いカへカるカごとく輕カくカてカ慥シ取締クりたる目カよカ眩カと
 見ミしめ難カく手カよカも亦カ取カり難カき貌カありて自然オノツカラあり

やーまう象を生せばありさうこも大虚空も
思ひ合もべー

上件茅四等よりこれまぐ本一義あり
を本末に分ちてその象を詳しうた

ふり

本^五オホホヒムス象 暑

此ノ音ワカレ昇りて騰ニシヒラクル象あるを長ク
唱ふるときはその息覆ひ蒸る象とありて願の
方まぐ蒸ー下ノ貌ありよく呼試してまぐべー
是レ天ツ國の大氣の泉ツ國まぐ及べり幽き理ありさ

て於ノ音茅四等のキザシノホル象と此ノ音のオホヒムス
象と昇降互に通ひてその中ノ衣伊の二音を生る
形状ら天ツ國の氣ハ下ニ泉ツ國の氣ハ上りて
泉ツ國の氣あつこといとも弊
由縁ありそは別いふべー
うて於ノ音ハ下ノ位ー上へ
蒸ーあげ此ノ音ハ上ノ位ー下へ蒸ーおろはる
て此ノ二音より衣伊ノ音を生むこと男女の交接より
て子茂生まぐごとく此ノ二音上下ノ放りあがら近
通ふことをよくおもふべー

○右本五義合十義

○衣

泉ツ平坂ノ状ニ思ヒ合スベシ又萬物發生ル状ヲカヌル

此ノ音ハ彼ノ一ツの物ある有ノ音より於音のつれ降
る象の内は幽はこの音の牙カシを合カシ包カシメリ委くハ於の音の所は
てきそハ彼の泉ツ國の成らむとまると時一ツ物ノ内は漸
空闊の所を生きむしそこは此ノ衣ノ音を孕カシ偶せ
を思ふべし

○萬物發生オライツル貌カシ兼る意ハ阿ノ音の上より覆カシひ蒸カシひ
於ノ音の下より萌カシ一昇る二音の産ムスビ具カシよカシりて初カシて
舌よりりて草木の芽立オライツルじカシとカシて發生オライツルる音あら茂カシ呼カシび
試カシしカシまカシるカシべし

此ノ音泉ツ平坂よ合へる音あるは泉ツ平坂ハ泉國の昇
發の氣茂地表カシより送カシり出ス氣脈あらば也然るは万物の
發生オライツルするハ彼泉國よカシて蒸カシ發カシする氣カシよカシりてものあら茂
思ふべし

本カシ一
カ、グル象

此ノ音有阿衣カシと連カシひて呼カシぶカシるカシは衣ノ音舌の末少
しカシうカシるカシ象ありと上カシいカシへカシるカシごとく草木の芽立
のじとき象あり但カシしカシ此ノ音の二音別カシ呼カシぶカシるカシ
は舌の末少し下りて向カシへカシるカシまカシいカシだカシまカシ象ありと舌
の末カシうカシるカシ象はあらぬ也そは有於阿衣とつらぬ

て呼ぶときは彼ノ於阿ノ産^ハ果^ニよりきて牙立^カ額^{ダツ}とあり別
よ此ノ音のて呼びて於阿ノ音よりきてけ^ケとときは第一
等のカ・ブル象^カ失せて第二等ト^ニなる以下の象^シあるを
よく味ひ試みてあ^アべー^ベり^リよ^ヨも^モあ^アや^ヤー^エともの也

末カビダツ象

上よいへるがうー

本^ニノブル象

向へ延る舌よ^ヨる^ルて^テあ^アい^イづ^ヅ音^ネあ^アれ^レバ^バこの象^シあ^アる
也これ萬ノ物の漸々^シ延び行^ク額^{ダツ}あり此ノ音專^ニ舌の
本^ニは觸^ルるは万物の發生^スよハ必^ズ根^ノカ^ノい^ル理^ヲあ^ラふ^ニと思^フ

べー

末^ニソダテヤシナフ象

こは第一等^ノのタチノブル象^トなりてた^ラ末^ニ義^{アリ}ありそ^ハ
萬ノ物凡^レて音^ヲ養^フときは其物立^テ延^ル形状^ニありされ^バ
物のうへよ^テハ此ノソダテヤシナフ義^ノの方^ニ本^ニあ^レれども音^ノのう
へよ^テハ延^ル舌よ^ヨる^ルて^テあ^アい^イづ^ヅ音^ネの象^シあ^アる^ニを^レれ
よ^クこの義^ハい^づつ^も也

本^三オク^送リイ^出ダス象

此ノ音舌^ヲ向^テ延^ルて其上^ニ送^リいた^ス音^ネあ^アれ^レバ^バこの
象^シあ^アる自然^ノのものよ^ク軍士^ノあ^ラむ^ニを^レ向^テあ^ラむ^ニ出^スる

は諸共は衣イくと聲をうらうらとせうら聲成らうらとと
きらその聲は引立られて已をうらとせうら向へ進らう
ものせまう物を向へ投げつらあらひは身よそへたる鏝
まどを向へうらうらいだまうとま聲をうらうらよおのづら
衣イといふ聲のいづらものありこれらよ合せうこの音の
象を知るべし此ノ象はオシワタス
象をそふへたり

未 平よとヒロガル象

こは第三等ノオクリイダス象よらうらいでたる末義也を
ハこの三等ニヤうらう舌の上を音聲の平らうらひらうらとい
づら象あれはあり

本 四添 ソヘヨスル象

第三等のオクリイダス象ハ則物を物よそへよとらう貌
あれは自然この象をあらはせされは第三等の末義の
ごとし又此ノ音を呼ぶ舌を頤の方へそへたる象あり
上件第二等よらう此ノ第四等まがハ次身よ
義をあらうこの本末は分ちたるその象哉
詳よ志たう也

本 五 物ニ因リテ活ヲナス象

此ノ音舌よ因りて初て活をあら音あれハ也於阿の二音ら
いまた舌よ
ることあしよはい此ノ音の義らこの韻のハ世且祢用米延
らよ合せたふべし

礼慧ノ九音の方又因リて其ノ活を多ク也はく言詞辞と
あらざること此ノ音遂ハ伊ノ音ヨ収リ合ヘテ義あれ
バヨリ又この韻を重ぬる言詞もあつこの韻の上よつと言
詞もあつとら少ク然レバ此ノ音ハ有レども無クとも
そをいふよとあれバ大行ノ數五十其用四十有九といへ
よ奇一之合ひて天地ノ理ハ満たつものハ漸死物とあるを
一ノ闕をふはときハ活物とある理を具へたるもの也されバ五
十音よ一て四十九音ノ用あるを思ふべし

○右本五義合七義

伊

天ノ八衢ノ状ニ思ひ合スベシ又萬物萌騰ル状ヲカヌル

此ノ音ハ衣ノ音弥進して此ノ音とある然レバ本衣伊ノ音ハ
同音よ一て唯舌ノ本ニ因ると末ニ因るとの差別あるの

○萬物萌騰ヲ兼る意ハ此ノ音ハ衣ノ音ノ末ニて衣ノ音ニ萬
物發生ノ意あれバその衣ノ音ノ遂ハ此ノ音とあるよと
おもひ辨ふべし又此ノ音天八衢ニ合へる音あるよ天八衢ハ
泉ノ國蒸発ノ氣ノ地中ノ氣脈より送出たつ地球
上を放れて大空を昇る其氣脈を云然るに萬物ノ地上
ニ萌騰ハ大氣ニあるものあるを思ふべし

本

夕子ノボル象

息 伊穗理

此ノ音舌の末找りげく息その舌の末は觸れて成へづ

音よく則彼の大氣の立昇る形状多きは思ひ合まべし

本^二ミチタル象 池市満

此ノ音を唱ふるは息口の内は満たる象なりそ天地

の間は彼大氣のこちくたると思ひ合まべし

「ミチタリウゴク象もあまそは大氣あれが必まづ

ありき理也

本^三ナリト、ノフ象 飯五石

此ハ第二等のミチタル象よりいづたると末義のごとき

もの也そハ物のこちたるときは則成熟ふ義あれが

り此ノ音有於阿衣伊と順ニ成りて此ノ音よく成熟也

末^押オミサダムル象

第三等の成リト、ノフ象あれが足らばることあく動

き轉ることあく動し押し定むる義あれが也

音を呼ば試らる舌を上より引あげて押付るがこと呼

ぶ音よく自然なり定むる義をあらは也

上件第二等より第三等までの義は次第

よあつていづたると也

本^四ヨセツクル象

此ノ音找強々呼ぶは舌ノ末脰は寄る付る象なり

木^五チカライル象 厭挑甚

上の第四等よい強きことと此ノ音を強ク呼びて舌
の末腭よ寄り付くとき其舌よチカライル象あり
故ものよカを入れて押付るとき聲をくればおの
づから伊イといふ聲のいづらもの也まゝ大氣の地球諸
星をもサへ持てる凡て其力の限りあるいづらま
ことをも思ひ合まべし

上件第四等より第五等の義ハ次第
よ生出たる也

○過ぎ去ル義

天地ノ間の氣の目よも見とめがたる手よも取らざら
き^ガ過ぎ去りしことと目よも見え^バ手よも取ら
れぬ義より適へるをいふべし^ハこれ諸の詞の活
用もこの韻の一段と過去の意とある^ハ過去意の辭
のき^ガ志^ハい^ハ等^ハも則^シこの韻也

○右本五義 合六義
末一義

○久

マキツケテ末ヲ上ル舌ニヨリテナライヅル音

此ノ音間口息の初より開口息ハ次第よ開けて進
出る音也假令ハ春の日の一日毎よ夏の方よ向ひて経行

えいぐいことし然るよまきへて進み出むとまらもの必
まづ縮ざることとをえげその引き縮むたるカよりりて
進みいづるものあれが春の氣の張出むとびる牙キヤを含まて
冬の氣の引き縮むたるをまじめきへて廣く天の下の
ものを考へ涉りて知るべきこと也けれがまづ引ツクル
象あるを思ふべしさてまき舌の末の上るハカノ物の進
むとびる牙を含まてまづ引縮むものら必その末の
上る縮き理あれば也

本一

ビ引キ付ツクル象

沓 歛 括

上よりいづるがごとし

此ノ象は一曲ノ象をも具へたり「カワク象をも具へ
たり」此者此ノ音の舌枝引付る象ありて舌の堅
く剛よりよおのづつ舌は潤をもたむ乾之象あり
此ノ音おつづけ呼試は必舌の上よりゆくもの也

此象は親き象を具かりそハ
須ノ音の尖き象のつらあり

末

こ短シカキ象

莖 杙 栗

此ハ第一等ノヒキツクル象よりいでたる末義也そハ物を
つきいだまよハ細長き顔ありて引付るハ其裏より短
き象ありが也

末

シ親タシキ象

此れも第一等のウキツクル象より出たる末義也その向
へツキイダス象より疎き義ありて此方へ引ツクル象ハそ
の裏より親ウキき義あれバ也

本^二カ^堅タキ象 樟

此ハ物を引付るときは自然堅オノカタとあるものより此ノ音も
引付る舌よりウキウキ成生る音あれバその舌堅ツル剛ツル象あ
り呼試ウキてアウキまウキゞウキとされバ此ハ第一等の末義のウキ
上件第一等より此ノ第二等までと本一
義あるを本末ウキとらニ義より分ちてその
象を詳ウキまウキたウキ也

本^三ワカル象 草種配

此ノ音舌を引付るよりアウキて喉よりウキウキ息碎ウキけて其ノ
引き付る舌の左右より分ちる象ありよく呼び試ウキてアウキ
るべウキきウキとウキ此象よりウキウキクル

本^四ウキアガル象 海月 泳浮

上よりウキウキことと舌の末の浮上る象あり

末^清キヨキ象

こは第四等のウキアガル象よりウキウキいでたる末義ありそハ
濁りて穢ウキきウキ貌のものらおのづから重ウキと沈ウキむ象あ
るものより浮ウキきウキ止ウキる象より自然清ウキき象を具へたる

もの也又清と爽サカサカよ〜〜亮サキなるほどのものハきらりと

浮立貌のり真寸美鏡マコトミカガミと白玉あどの形状を考合カウカフと

本五カクル象 奇奥闇

此ノ音舌を引付るよヨとトその舌口の奥の方へ隠カクレる

象ありカタカニカスカス象をそふへハリ

此ノ音とキツクル象よヨとト物よカス入カスる義あり故

手成もて為る業ハ大方この音の活用あること我思ふ

べ〜流音この音とハま〜心よちつうらをい〜義もあ

そは〜〜むとゆるに〜むとふたぶれ又は〜ゆる

〜いむ〜いあどの類あは多〜

○此ノ音ワカル象よヨとト形状をい〜詞とあ形状をい

い起し活用〜ちま〜音雜ハまきの音の韻ユと通ひ 何れの詞も形

状の意は轉マるときは此久音よ活用ハざるハ〜ハ〜ハ〜形

状の詞を云居イ〜加ノ音ハノ音をそふ〜ことあるも則此

音のワカル、象よヨとトい〜た〜也そハ〜〜ハ〜ハ〜

の形状よ相向ムカヒふ象ハ〜ハ〜也

○右本五義末三義 合ハ義

○須

ツキイ出ダシテ下ル舌ニ因リテナ成リイ出ヅル音

此ノ音ハ開口息の進み出る初より久ノ音の引付たるカ
よてツキイダス象をませりけりまき舌の末の下り
ハ万物進むと比る萌のときハ末の上りものよて進む
ときハ漸末の下り行るもの也矢あとの飛ぶ状よて
うへまひる也

本^一ツキイダス象 洲進鈕

上よいへるがごとく

末^細ホソナガキ象 杉薄筋

物の進むゆるは細長と成る状なり也

末^疎ウトキ象

この二義ハ第一等のツキイダス象よりまげたる末義
也々ハ久ノ音第一等の末義のころよいゆるがごとく

本^二スルドキ象

物を進み突出り貌よかのづつ々々尖き貌なりものよ
て此ノ音も衝出り舌よりまき生出る音あれがその尖
き舌は解れていづる音あれが音聲もかのづつ々々尖
き象を具へたるされバ此ハ第一等の末義のころ

○キ^清ヨクナル象

第二等の中より自ら含むるハ鋭き性なりものらかの

づり物ツリモノの清スガとある象を備へたるものあれがあらた
へハ酢ツキすへハ薄荷ハハコといふ草クサおど突徹ツキトホる如き質ツキなり
物を清スガらむるよてまづべし

上件第一等よりこの第二等まづ本一
義あるを本末まづハニ義ツキよも分ちて
の義を詳ツキよしとる也

本^三ヤマリヨル象 好裾統

此ノ音を呼ぶよ舌の中間の堅ツキは溝ツキのごと成りてそこ
を息の窅ツキりて進ツキいづ音あるをよろしく呼味ひて
まづべしとて萬物尖ツキと進むとき必らば窅ツキり寄

る貌あるものよて馬ツキおどののけり形状まて風ツキおどの強ツキ
進ツキぶさまふど凡ツキて草木ツキおどよいたるまづ尖ツキと進ツキりて細
長き形あるものら杉ツキ薄ツキ菅ツキおどの類その枝の張り廣ツキから
づかのつづつ窅ツキり寄ツキりたる形あるをかもふべし

末^蜜コマカナル象 砂巢簾

此ハ第三等のセマリヨル象よるいざたる末義也ハ物の
窅ツキり寄ツキりるときは必細ある象ありものあれバ也まづセマ
リヨリタル象ツキは細く筋ツキの立たる貌あれバその筋ツキのこまツキ
ある象を具へたる義もあり也

本^四シツミクダル象

上よいぬらふこと〜此ノ音舌の末の下る象あれはあつ

久ノ音のウキアガル
象のうらあり

本^(五)ワザトスル象

此ノ音舌を衝出く進メ物なき〜あつる象あれは
為の意よ〜この義をあらありされバ自然ある詞もこ
の行は轉り活用とときら態とさる意とある

○右^{本五義}合八義
末三義

○都

上^{カハシ}断ニツキ^衝當リテ丸クスル舌ニ因リテナリイツル音

此ノ音開口息の極よ〜
奴ノ音ハツキヲハル象ハ
ルバ極よハあら 須ノ音は火々

進む象あるものあれば則此ノ音の象をよせらる

本^(一)上ニツク象

此ノ音を呼ぶよ上^{カハシ}断の方よ衝當るよ〜この象あら

末^高タカキ象

此ノ象上断よツキ當ルバ也

本^(二)ツキアタル象 突槌杖

これも上断よ衝き當ルバ也

末^剛ツヨキ象

此ハ第二等のツキアタル象よ〜いぞなる末^{カハシ}義ありそハ
衝當るものハ必剛き勢ひあるものあれば也

本^三ツ迫マル象 畏積

此ノ音上よいへるごとく上断ニ突當りて丸なる舌よ
よるまて生^ナ出^ルる音あれバ此ノ象を具へたる也をハ凡テ
の物ものは當れバその形迫りて丸なるものあれバ也

末^丸マルキ象 圓粒露

此ハ第三等のツマル象よるも出たる末義あり

本^四ツラ列ナル象 蔓継妻

此ノ音丸なる形をあれバ其のつら^ツく^ク形を
あれバ其のつら^ツく^ク形をあれ
たるものハおのづから列りつら^ツく^ク象あるものあれバ

此義ハある也されバ此ハま^マべ^ベの例ハ倣ハ^ハ第三等の
末義のつら^ツく^クも此義よる名づきたる言詞
もいと多^タく^クつら^ツく^クも此義よる本義の
中ハ収^ウたる也

本^五タシカナル象 静濡持

此ハ第三等の義の類よる開け^ケ取^ク締^メらぬ象あれバ
慥^シあらぬ象あるよ此ノ音迫りて取^ク締^メりたる象あれバ
則^シ此ノ義もあれ也つら^ツく^ク此ノ音を呼ぶよ齒^シよる外^ノ息^ヲ
漏^ルさ^ズ齒^ノよる内^ニは取^ク締^メるよ^レ象あれバ
よ^ク呼^ブ試^スて^モま^マべ^ベニスル義を具へたり

此ノウ^ウた^タち^チヨ^ヨナ^ナタ^タノ^ノモ^モノ
ニスル義を具へたり

○右 本五義 末三義 合八義

○奴

下断ソヘヨセテ平ニスル舌ニ因リテ成イヅル音

此ノ音開口息の終リヨク都音の突當る象あるは次
第テ突當れバもへく勢の脱けく平ニ成りくは盡竟る
我あるものあれバこの音の象をよせし

○木 一 下 依 ニヨル象

此ノ音を呼ぶよ下断方ニ添寄るよるは此象なり

○ヒクキ象

第一等の中よ自然含むそハ下よるハ即ヒクキ象なり

れバ也

○木 二 下 物 ノニソフ象 縫 兼

上よいへるは下断ニ添寄る舌よれバ此の象なり

○末 軟 ヤハラカナル象 萎 握

此ハ第二等の物よる象よるは末義也そハ都
ノ音の物よ突當る象ハ剛き象あるをこハその裏
よる物よ添ふ象ハ軟うある象なり也

○末 親 シタシニヨル象 丈

此も同じく第二等の末義也そハ物よ添ふ物よ親

和ら象られ也

本^三タヒラナル象 布塗寐

此ノ音平ラよひる舌よるうらまへ生いぐたなる音あれ也
象のり

末^持ナダラカナル象

此ハ第三等よるまいでた末義也そハ平ラあるもの
折なる象のりこといふまをもり也

本^四ウルホヒラモツ象 濡

此ノ音よく唱へ試みるるときハ舌軟きておのづから潤を
持つ也久音を呼ぶよ堅く剛るよるして乾く象のりよ

かもひ双べてまるべ

末ヌル、象

第四等の中ニ自然含む

本^五ツキヲハル象 死往

前よいへるがごとく但し此ノ象よコノニ盡キテカシコニ
興ル義を具へたるそハ此ノ音ニテ開口息の盡きて
次の不ノ音よ合口息のちりまる義のり也

末^{自然}オノツカラナル象

此ノ音軟よ折ある象のり也此ノ象をそふへたりこと
よ開口息の盡き竟るハ自然ふれ也

開け出る象 和行の字の音ハ合ひ収る象より猶男女は

理を具へたより二音づつ相偶ひて男女の象をあらは

必然のべき最もあやしく奇しく妙あり理あり

そハ別よ委しくいふべし

開口息ハ二音づつ反對して軽重を兼ねてて開口息の強柔ハ強

先より柔これより次より合口息ハ二音づつ軽重より反對を兼ねて其輕重ハ輕を先より重これよりついでて開口息ハ合口息は双へて音九の輕

合口息ハ開口息は双へてハ音九の重より輕より反對して位の定りたるをよき思ふべし

本^一アハスル象 合蓋統

此ノ音を呼ぶよ唇を合せる象なり也

本^二フクム象 冬咋謔

唇を合せて息を口の内に含む象なり

末^三フカキ象 更耽

此ハ第二等のフクム象よりなりたる末義也そハ唇茂合

せり口の内の息を含む象なり其口の内の自然深き象

をあらは也

本^三フル象 總袋兜

含むもの必外ハ脹る象ありされ此ノ音を呼ぶ

は頬のふくらむをこころづきこころ第二等の末義の

ごとし

本^四ハリイヅル象 柴節落

脹るもの遂ハ張いづる勢あり上より

とく口内よ含きたる息を古きも外へ張り出さる象なり
けりこハ第三等の末義のごとく

本^五ヒロガル象 伸

張りいづる息の漸廣いづる象なりこれハ第四等ハ
末義のごとく

上件第二等より此第五等まで本一義
あるを次第ニ義をおいて四義よりこれ

たると也

○右本五義 合六義

○牟

形状まじく系を持まじく状あざよまじくまじくべり元々
廻り形状ハ幾度も本の所ハ戻りくものを巻るごごと

上件第一等より此第四等まで次

第一義をおいて四義よりこれたると也

本^五カヤムト思フ象

物を然やむとおもふ時ハおのづからこの音のごとく
唇を引きつむる象なりこの物を思ふハ廣きこと
を一つよつばめく心よ引締る貌あり也

○右本五義 合七義

とく口ノ内よ含こたつ息を舌をて外へ張りて出ま象は

本^五ヒロガル象 伸

張りいづる息の漸廣いづる象はこれも第四等比
未義のごとく

上件第二等より此第五等まで本一義

あるを次第に義をちりて四義よりこれ

たつ也

○右本五義 合六義

○牟

欠

MISSING

形状まじく系を持まじく状あざよまじくあざべー元々
廻る形状ハ幾度も本の所ハ戻りてものを巻まじくこと

上件第一等より此ノ第四等まじく次
第一義をまじく四義よりなれた也

本^五カヤムト思フ象

物を然やむとおもふ時ハおのづからこの音のここと
唇を引きつむる象なるこの物を思ふは廣きこと
を一ツよつばめて心よ引締る象ある也

○右 本五義 合七義
末二義

○由

末ヲアゲテ控ル舌ニ因リテナリイヅル音

上よもいゆるごとく合口息の漸々ニ閉ぢて収るを次
第^テはまれバ不ノ音より唇を合ヤ牟ノ音ニテ唇を
引結、此ノ音より舌を控る也そハ唇を全くとひきつ
むれバ次ハ舌を此方へ控るの漸々ハ閉ぢ収る次第^{ツギテ}
ふれバ也

本^一 ^一カヘヨスル象 弓指結

此ノ音舌を控る象阿れバ也

末^二 ^二イミツ、シム象 謹

此ハ第一等のとカヘヨスル象よりいでた末義也
ハ物を控るよおのづから謹む象阿れバ也

本^三 ^三ユルム象 瘡絶

常ニ平ニ延してある舌の末越りて此方へ控へ
よれバその舌弛む象をあらたくとバ引延へたる
布あどの向の端をとらりげて此方へ控ゆるれバ
中間の弛^ム貌^ハひらよてま^ルべ^シ

本^三 ^三ヤハラグ象 豊粥煮

押し張りたるものハおのづから強^ク弛^ミたるものハ
おのづから和^カ象阿れまされバ此ハ第二等の末義の

こゝろ

末柔ヨロキ象

此ハ第三等のトハラグ象よりいであたる末義也そのハ和ぶものハ柔キ象也

上件第二等よりこの第三等までハ本一義あるを本末まゝハ二義より分ちてその象を詳よあたる也

本四ワク象

湯生

此ノ音を呼ぶ舌の末揺ユラメき上る象也そのさあぐら水ふどの涌揚る貌ひるをうけ呼び試シみるさあぐら

末重カサナル象 床 由津某

こゝろ第四等の涌ちぐる象よりいであたる末義也そのハ涌揚る貌より下る及ク重り沸アガる象はるものふれハ也

本五タバヨハシキ象 動行露

此ハ涌揚る象より漂ハき象はれがありされがこゝろ第四等の末義のハ

上件第四等より第五等まゝハ本一義あるを本末まゝハ二義より分ちてその象を詳よあたるあり

○右 本五義 末三義 合八義

○流

末ヲアゲテビク舌ニヨリテナリイヅル音

此ノ音舌の末を上げて控る象次第アテその控る象

の弥重き方へ行て義よて末を引く象也

以也 不ノ音年ノ音の 輕重の 由ノ音ハ舌の末を小カ挙げ

此ノ音ハ腭ニ付て斗り挙げて舌を巻く象也

と呼び試くまへ但一長く引きて唱れば有ノ音よ

象ハ味ハ

本 一 ビキヨスル象

此ノ音舌を引く象也

本 二 ウゴキオチツカヌ象

舌の末を揚げて引く象也

アハ呼び試くときハ明也

本 三 ウツル象

第二等の中よかのづら含むてハ静スウ止れる物ハ轉り

變らげらるるを揺きかちつて物ハ轉りカツ變る義也

のちれが也故内現全まどの言を虚ウツロあぐ呂ノ音をそとふ

るときハ内の空カハレあり移カハレあど流ノ音をそとふときハ現の

移り行くこととあるよてあるべしこの類ふなり

上件第二等より此ノ第三等までハ本

義あるを二義に分ちてその象を詳し

きこふ也

本^四内ノムナシキ象

此ハ舌ノ末を挙げて引よる象よその舌ノ外ハ取廻

して内の空一き象をよせら呼び試みてきこふべし

本^五ヲハリヲサダムル象

此ノ音の位五十音第九行めより終る則終を結ぶ

むる義なり 和行の位第十行めより終るときものうゝ
和行ハ本音より一理られ此ノ行終と成故言詞

の下をのゝ助けて上は属とにしく沈え一言もあ

ぬを思ふべし

合五義

○字

喉ヲスボメテ縮ル舌ニヨリテナリイヅル音

此ノ音本音の有ノ音と男女のいことよしとつた

の義表裏あるはくまご合口息の年ノ音よる唇月を

全くと引結流ノ音よる舌を引寄る象あるは唇も

舌も収る義あれば此ノ音よる喉を窄め縮る舌と

共よ息も喉の内へ隠れいる象あり喉を窄る象ハ本

音ノ有ノ音の喉を開ク象の裏舌を縮ル象ハ同トシク
有ノ音の舌を伸ル象の裏あり

本^一ト^止マル象 現全得

開口息の有ノ音ヨリ次^{ツギ}茅^キクひ^ツけ^ケ進^シタル音の
合口息ヨリ次^{ツギ}茅^キク閉^トメ^ル収^メルその極^キヨリこの象^シ
也

本^二ツ^ハマリ^アツマル象

こハ前^メヨ^リへ^ルじ^とく^く喉^を窄^クテ息^を喉^の内^に収^メル
象^ハ此^レバ^その^息窄^クリ^テつ^まり^聚ル象^を示^ス也

本^三内^ニモツ象

喉^を窄^クテ息^を喉^の内^に収^メル象^ハ此^レバ^おの^づく^こ
の義^ハ此^レ也

本^四ノ^ビタル^{モノ}、モ^{トル}ル象

本音の有ノ音ヨ延^ビ行^ク象^ハ此^レヨ^リこ^のよ^り延^ビ行^ク也
その延^ビ行^クもの^ハ戻^ル象^を示^ス也^此象^ハ此^レ也

本^五モ^キモ^ドス象

本^五カ^{クル}、象 心失

喉の内^に息^の隠^レ収^メル象^ハ此^レ也

○カ^{クレ}タル^{モノ}、ア^ラハ^ル、象 鶏

此ハ茅五等の中ニ自然含りたる義也そハ喉の内ニ息
 の隠れ収れろを長く唱ふれば再々息の外へ頭れいで
 初ノ有ノ音よりくる象あれバ也さきよりくる次第は開
 けり進出たる音の又次第は閉ぢ収り止れり再々
 初は還ること輪を画きたるが如く大地の周施るごと
 とき形状あるを此ノ有ノ韻の一段の頭國は適れりよ
 合せて深く味ひ厚く察ふべし

○右本五義合七義末二義

○通計本七十義合百三義末三十三義

版權免許

明治十年 三月七日

茨城縣士族

著者 堀 秀成

東京第三大區七小區
赤坂三丁目四番地寄留

神奈川縣平民

出版人 門人 中村信治

神奈川縣第二大區四區
小船町千五百廿五番地居住

東京 癸兌 書林

日本橋通壹丁目 須原屋茂兵衛
 二丁目 山城屋佐兵衛
 三丁目 丸屋善七
 四丁目 金花堂
 本石町二丁目 椀屋喜兵衛
 大傳馬町三丁目 東生龜次郎

